

獣“がい”問題とは、“獣がいること”ではなく“人がいないこと” ～野生動物と人が共存できる“懐かしい未来”の中山間地を創る～

「熊」が2025年の「今年の漢字」に選ばれたように、かつては中山間地域の問題と考えられていた獣害が、都市を含むより広範囲な地域の問題となっています。その背景には、単なる“エサ不足”だけではなく、野生動物たちの生息する山地と都市の緩衝地帯であった中山間地と呼ばれる地域における“過疎・高齢化”に伴う荒廃が大きく影を落としていると考えられています。野生動物による被害を軽減するには、野生動物を“害獣”として闇雲に除去するのではなく、どのくらいの数がいるのか、いつ、どのエリアで、どういう手法で捕獲するのか、本当にそれだけの数を獲ったらへるのか、といったデータをもとに共存を目指して管理しないと効果は望めないともいわれています。

中山間地域に獣がいることではなく、その地域に人がいなくなり、獣害対策ができる集落がどんどん少なくなってきたことが大きな原因ではないかとわかってきました。

中山間地域の活性化を進めていくことは、私たちの食料、生活環境を守る上で大切であるとともに獣害対策は中山間地域の問題だけでなく、都市住民にも密接に変わっている課題であるのではないのでしょうか。

そこで、野生動物保護管理の現状と、野生動物との共存を図りながら中山間地域の活性化の取り組みについてお話しを伺い、私たちの食料、地域、生活環境を守るためにできることは何か？を一緒に考えていきたいと思えます。

NPO法人近畿アグリハイテク 理事長 白岩立彦
(京都大学名誉教授・NPO法人無施肥無農薬栽培調査研究会理事長)

(日時) 2026年 6月16日 (火) 14時～16時20分

(場所) キャンパスプラザ京都 5階 第1 講義室

(京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939)

(対象) どなたでも参加いただけます (会場参加又はアーカイブ配信)

農林水産業の生産者や関係する団体、民間企業や大学等の研究や開発に従事されている技術者、自治体や関係機関の方、教育関係の方、学生や一般の方など、関心のある方のご参加をお待ちしております。

野生動物との共存を目指して里山を再生すれば見えてくる 自然の力とテクノロジーで『懐かしい未来』の農村を創る

株式会社 ういるこ 代表取締役社長

株式会社 未来里山技術機構 代表取締役社長

 山本 麻希さん

(プロフィールの詳細は裏面をご覧ください。)



**参加無料です
事前にお申し込みください**



講師：山本麻希さんプロフィール



株式会社 ういるこ 代表取締役社長
株式会社 未来里山技術機構 代表取締役社長

総合研究大学院大学博士課程修了。理学博士。
長岡技術科学大学で19年間、工学技術を活かした鳥獣対策の研究開発を行いながら、研究内容を社会実装するため、2018年より(株)ういるこの社長として野生鳥獣支援事業を展開。
また、2024年より中山間地域の地方創生事業を行う(株)未来里山技術機構を創設し、地方の過疎高齢化の問題に取り組む。

第1種狩猟免許、罟猟免許、網猟免許、麻薬研究者免許を保持。

委員会等

環境省 中環審専門委員 自然環境部会 野生生物小委員会委員
農林水産省 鳥獣対策優良活動表彰 審査委員
環境省 特定鳥獣(鳥類)に係る保護管理検討調査業務に関する検討委員(カワウ)
環境省 自然環境局 鳥獣保護管理プランナー
農林水産省 農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー
一般社団法人鳥獣管理技術協会 理事(副会長)
一般社団法人 ふるさとけものネットワーク 会長
NPO法人新潟ワイルドライフリサーチ 副会長
公益社団法人 こしじ水と緑の会 理事

◎ 申し込み方法

- ご希望の受講方法(「会場参加」又は「アーカイブ配信」のいずれかを明記)
※なお、アーカイブ配信は参加申込の方に限り、一定期間ご覧いただけます。
- お名前(ふりがな)
- ご連絡先(メールアドレス、電話番号)
- 所属団体名又はご住所(市町村名まで結構です)

をご記入のうえ、メールまたはファックスで
2026年6月9日(火)までにお申し込みください。

※お申し込みに係る個人情報につきましては、本セミナー以外では使用いたしません。

◎ 問い合わせ・申込先

NPO法人近畿アグリハイテク
〒606-0805 京都市左京区下鴨森本町15 (財)生産開発科学研究所内
TEL/FAX: 075-711-1248
E-mail: office@kinkiagri.or.jp